

合同技能訓練を実施しました

2025年9月7日に横浜市民防災センターで開催された横浜市災害ボランティアネットワーク会議会員の公益財団法人SL災害ボランティアネットワーク横浜チーム（以下「SL横浜」）主催「市民災害ボランティア合同技能訓練～よこはまのために～」が開催されました。横浜市災害ボランティアネットワーク会議としても賛同し、市内の災害ボランティアにも呼びかけを行いました。これは横浜市内の災害ボランティア活動としては初の試みでSL横浜に大きく依存した開催だったとはいえ、横浜市内のボランティアのつながりを作るための、大切な一歩と考えています。

訓練の内容も、とても有意義なものでした。

参加者 SL 9名 区災ボラ10名 合計19名で開催され、横浜市民局課長 横浜市社会福祉協議会からも3名が参加していただきました。市民局・社協共に非常に興味を持っていただき「このような顔が見える活動が重要」と評価があり、今後も継続していくことが重要だと認識しております。



アナフィラキシーショックがおきたら、エピペンで注射を。そして、緊急時のエピペン使用は、医師法違反にはなりません。しかし、知ってはいても使う自信ありますか？多くの人が、エピペン自体を見たことすらないと思います。まして、エピペンの中身が「アドレナリン」だとは全く知りませんでした。



ビニール袋による炊飯ですが、適切な水の量がわかる印もついてました



避難所における食事は、量や栄養価だけでなく、アレルギー対策も重要です



担架にもいろいろな種類があり、布製のものも、扱いやすくよかったです

【編集後記】

横浜市は2026年3月1日時点で1,838,422世帯、3,765,828人の大都市です。そんな大都市で大災害が発生した時、私たちはどこまで「公助」に期待できるのでしょうか。市や区の職員の方々も、警察や消防や医療関係者も皆が被災者になります。かつてバブル崩壊時に「大きすぎてつぶせない」と言われたことがあります。横浜市では「大きすぎて助けられない」ことが十分予想されます。市内のボランティアがつながることが、本当に大切だと思います。



横浜災害ボランティアネットワーク会議

発行責任者：代表 舩田 悦子

編集責任者：事務局長 畑 謙司

Mail: ysvn.jimukyoku@gmail.com

HP: <https://www.yokohama-svn-kaigi.com/>



横浜災害ボランティア ネットワーク会議 NEWSLETTER

No. 68

2026年
5月発行

代表 舩田 悦子



このたび、河西前代表からバトンを受け取り、横浜災害ボランティアネットワーク会議（YSVN）の代表を務めることになりました。多くの皆さまに支えられてきたこの会の一員として、新たな役割を担うことにあらためて身の引き締まる思いです。YSVNは、阪神淡路大震災の経験をきっかけに、「ふだんから顔が見える関係をつくること」が、災害時の力になる」という思いのもとに生まれました。多様な団体が集まり、顔を合わせ、支え合いながら、横浜の“助け合いの土台”を築いてきました。この積み重ねが、今日のYSVNを形づくっています。

これからも、人と人、団体と団体がゆるやかにつながり、必要なときに自然と力を寄せ合える関係を育てていきたいと考えています。そのために、「顔が見える関係」を大切に、活動の情報を分かりやすくお届けして、初めての方でも参加しやすい雰囲気づくりを進めてまいります。また、行政や社協をはじめとする関係機関との連携も深め、災害時により良い支援が届けられるよう準備を進めていきます。

YSVNは、一人ひとりの思いがつながり合って成り立つネットワークです。皆さまと共に学びながら、丁寧に歩みを進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

副代表 中島 一郎 （港北区災害ボランティアネットワーク）



ボーイスカウト活動を続けたことから、港北区災害ボランティア会議に参加するようになり、今年度から横浜災害ボランティアネットワーク連絡会副代表をさせていただきましたことになりました。三陸の綾里町を中心に、東日本大震災の被災地には何度か訪問させていただきましたが、被災地でのボランティアの経験もない者がこのような重積をお受けしていいのかとも思いましたが、市内のボランティアのネットワーク作りのお役にたてればと、お受けさせていただきました。

なんといっても、横浜市は大きすぎます。そして大規模な災害が発生したときは、行政の役職員の皆さんも「被災者」です。その時に「生き抜く」ためには自助・共助、そしてそのための知恵と備えが必要です。市内のボランティアが本当に連携して助け合える体制をしっかりと作ることがとても大切だと、思っています。横浜災害ボランティアネットワーク会議の活動を通じて、少しでも繋がりや輪を広げることが、自らと自らの家族や友人を守ることにつながると信じています。

YSVN役員一同より

災害ボランティアの高齢化が課題となっていますが、自治会役員の皆さんや民生委員の高齢化も深刻になってきています。その上、個人情報の保護が進んだこともあり「隣の人はだれ？」という方も増えていると思います。しかし、阪神淡路大震災の時に最初の救助で役に立ったのは、隣人・友人という人の繋がりでした。もう一度、私たちは「つながり」を考え、意識していく必要があると思います。まずは「挨拶ができる」人付き合いから始めてみたい、ボランティア同士は繋がってほしい、そう思います。

港北区災害ボランティア連絡会 被災地経済支援活動

被災地の復興には、自律的な経済活動が必須です。しかし、被災地の福祉事業所では、被災の結果による人口流出もあいまって、利用者の減少による補助金の大幅な削減などで、事業の継続が困難になろうとしているところも多くあります。

港北区災害ボランティア連絡会では、被災地の福祉事業所の運営を支援するため、福祉事業所が制作・販売している物産を購入し、港北区内のお祭りや防災拠点訓練などで販売する活動を行っています。物産の販売で経済的な支援を行うだけでなく、被災地の「今」を多くの方に知っていただく機会になればと、継続して実施しています。



- 【参加した主なイベント】
- 菊名らくらく市
 - ビーのビーのThanks フェスタ
 - どろっぷデー
 - 港北小学校拠点訓練
 - 港北ほくほくフェスタ
 - 岸根公園感謝祭
 - ふるさとふれあい港北祭り
- など。その他定例会やセミナー実施時に販売を実施しました。

2025年度被災地経済支援・購入実績

購入先	品物	購入数
きらら女川	りんご味	55
	ゴマ味	45
	ずんだ味	45
	さつまいも味	55
	塩味	55
	コーヒー味	45
	ねぎみそ	45
	おからかりんとう計	345
愛育会きらり	お手軽ごぼうくん	80
	ソフトチップりんごさん	100
	スティックりんごさん	100
	乾燥チップス計	280
みのり園	ぼん菓子白米	100
	ぼん菓子玄米	100
	ぼん菓子巻マカロニ	100
	ぼん菓子白米（かたまり）	100
	ぼん菓子計	400
くじらのしっぽ	ワカメ小	80
	塩蔵ワカメ計	80
七ヶ浜漁協	海苔チップス（塩）	45
	海苔チップス（オリーブ）	45
	海苔チップス（唐辛子）	35
	海苔チップス計	125
つばさのかい	味噌	20
	味噌計	20
購入数量合計		1250

青葉区災害ボランティア連絡会 防災拠点訓練

2025年11月1日青葉区さつきが丘防災拠点の防災訓練の一つとしてHUG（避難所運営ゲーム）体験会を実施いたしました。

- ・参加者 さつきが丘地区自治会、しらとり台自治会
さつきが丘小校長、青葉区防災参与、区職員
総計60名 8テーブル
- ・実施時間 9時30分～11時45分
- ・HUGは初めての方がほとんどで、さつきが丘小図面使い体験されました。8テーブル毎の特徴が現れ短い時間でしたが好評でした。

テーブル共通課題はこの地区は町内会10000人の大きな町内会のため、車避難の方の駐車場問題、トイレ、ペット同伴問題と今後行政踏まえ課題が出てきました。

また10000人規模の町内会のため、20%避難されても避難所のさつきが丘小の現状スペースでは収容出来ず、規制がある小学校使用範囲の拡大、自宅避難等の課題もでていました。

防災拠点でのHUG体験会は7箇所実施しておりますが、今後とも継続して、各防災拠点の問題抽出のお手伝いしていきたいと思います。



かながわ・よこはま防災ギャザリング参加報告

日時：2025年11月22日（土）9:00～12:30 場所：横浜市民防災センター・沢渡中央公園

2025年11月22日（土）に開催された「かながわ・よこはま防災ギャザリング」に、横浜災害ボランティアネットワーク会議の会員も参加しました。右は上から、南区災害ボランティアネットワーク、磯子区災害ボランティアネットワークのブース、右一番下は都筑区災害ボランティアネットワークのブースで、受付と誘導係の取りまとめを担当しました。

左上は、SL災害ボランティアネットワークさんが展示されていたブルーシート1枚で作る簡易シェルターです。その下は神奈川災害ボランティアステーションさんの展示ブースです。左一番下は、米軍の災害用の大型車両の展示です。その他にも水道局や警察・消防など貴重な展示ばかりなのに、来場者があまり多くないのが少し残念でした。

